

所 報

1. 研究室活動報告

(1969年4月—1970年9月)

A. 教育哲学研究室

a. 教育哲学

日高教授（客員教授）

大学院において「教育基本法」の成立とその思想的背景に関する講義を担当している。

小島教授（大学院教授）

1970年4月より新しく設けられた「大学院教授」として、大学院での教授に専念している。そして年来かかわって来た「民主主義教育の哲学的基礎づけ」の問題に関連して、教育哲学という学問の性格を明かにする努力を続けている。外部的な活動としては、1970年10月9日玉川大学で開催された教育哲学会第13回大会に於いて、一部会の司会をつとめた。

金子教授（客員教授）

1970年秋より客員教授として近代思想（ヘーゲル）のセミナーを担当する。

讃岐教授

アメリカにおけるプラグマティズムの教育思想を、教育思想史の立場から研究するとともに、大学の理念に関する研究にも着手し始めている。前者の成果としては、共著『教育思想史叙説』（葵書房、1970年4月刊行）のなかで、「プラグマティズムの教育思想」を含む「現代」の章を担当執筆した。また、1970年11月号の『理想』に発表した論文「アメリカの大学」は、後者の研究成果の一端を成すものである。

川瀬助教授

教育哲学思想の基盤としての社会哲学の思想史的研究を行なっている。

1970年5月30日、上智大学において行なわれた教育哲学会月例研究において「社会層と理想的人間像」と題する研究報告をした。その他私大連学生助育研究集会（8月23日～28日妙高にて）、大学教育懇談会（9月19日～20日大学セミナーハウス）、私大連第1回大学教育問題研究集会（9月28日～10月1日下田）、日本倫理学会21回大会（10月10日～11日上智大）等に参加した。

理想社の『実存主義講座』第4巻『気分』の中「ペシミズムとオプティミズム」を執筆した。（1971年3月刊行予定）。

磯田助教授

昨年からの共同研究「戦後日本の教育課程改革」はようやく大詰めを迎え、1971年

5月には、「戦後日本の教育改革，教育課程，総論編」として東大出版会より研究成果刊行の予定である。また，1969年末より「教授理論史の総合的研究」（仮称，細谷俊夫立教大学教授をチーフとする10名の共同研究）にたずさわっている。その他共同研究としては，文部省科学研究費による「民間教育史料研究」や授業研究サークルによる実証的研究に参加している。

外部的な活動としては，1969年2月，青山学院大学で開かれた日本教育学会大会における課題研究「大正デモクラシーの教育」で，教育方法の立場から提案者となった。また，1970年8月下旬，東京大学教育学部附属学校で開かれた日本教育方法学会，日本教育学会大会に出席した。

雑誌論文として，次のようなものがある。「戦後理科教育論争史」（『教育科学 理科教育』1969年9月号，明治図書）および，「ホームルーム」（『教育』1970年6月号，国土社）

b. 基督教育哲学

秋田教授

1970年4月より6カ月の研究休暇をとり，ここ数年来の研究課題であった「人間形成の基督教的基礎」（基督教教育哲学）研究の全体的な検討を行った。

「歴史と地理」（山川出版社）1970年2月号に「旧約における共同体意識と個の問題」を執筆掲載した。学文社「西洋倫理思想史」中の古代倫理思想（ヘブライズム）を担当執筆した。これは，近日中に出版される予定である。なお，キッテル新約聖書神学辞典「義」を並木講師（人文科学科）と共訳し，教文館より単行本として出版した。（1970年10月発行）。

c. 教育思想史

長教授

1970年6月19日より7月下旬まで，スイスのジュネーブに於いて開催された世界教会会議(World Council of Churches)の国際問題委員会に出席し，帰途，レバノン及びシリアを訪問して，中東紛争の実情，キリスト教会のアラブ難民救済事業などを視察した。

著書としては，編著『比較近代化論』（未来社刊，1970年3月），および「戦後日本思想大系」第2巻『人権の思想』（筑摩書房刊，1970年10月）を出版した。また論文には，「革命思想と天皇制——高島素之の国家社会主義思想を中心に——」（『近代日本政治思想史』II，有斐閣刊，1970年3月），「近代化論の視角」（『みすず』1970年7月），「内村鑑三と木下尚江」（『日本と世界の歴史』第20巻「二十世紀」，学習研究社，1970年12月），がある。

d. 比較教育学

デューク助教授

「日本教職員組合の戦いの歴史」と題する博士論文により，1969年7月，ロンドン

大学から比較教育の分野に於ける Ph. D. の学位を得た。

外部的な活動としては、1969年イギリスに於いて開催された、ヨーロッパ比較教育学会のイギリス部会に参加し、また同年4月ソビエトに於ける「現代の青年組織」を研究する実地調査に参加した。

B. 教育心理学研究室

研究室に直接関係のある1969年度のできごととして特記したいのは、412号室の改造である。前々から購入を希望していたVTRの装置を文部省の助成金で手に入れることができたので、412号室を改造して、この装置を使って研究、実験することができるようにした。それに付随して、401号室には、観察室とコントロール室をつくった。

人事異動としては、モースバツハ助教授が、第1期の契約がおわるので、海外に行くことを考えておられたところ、Glasgow 大学から招かれたので、第1期の契約期を6カ月残して、9月(1969年)に1年間の休暇を取られた。1年後の1970年秋に帰国することが望まれたが、Glasgow 大学に残りたい希望が出され、結局こちらは退職して、Glasgow 大学の専任になられることになった。

1969年の2月から米国に行って研究をしておられた原一雄助教授は1970年8月末に帰国され、9月から教鞭をとっておられる。

依田新先生には引続き1970年6月まで客員授教として大学院博士課程の学生の指導をお願いした。

梅津八三教授 久しく欠員のままであった教育心理学専任教授に、盲聾啞の重障児の心理と教育に業績ある梅津八三博士が就任されることとなり、1970年春からその手続きがすすめられた。同博士は文部省教育研修所(後に国立教育研究所)の所員時代より、当時東大におられた故岡部弥太郎教授に協力して、わが国で初めての進学適性検査の開発と理論的研究をすすめられた。その後、第一高等学校、東大教養学部および東大文学部の心理学教授を歴任され、定年退職後1967年4月より関西大学に移っておられたものである。

肥田野講師は、非常にご多用のところ、本大学のために時間をさいて下さったが、結局1969年度は1, 2, 3学期、1970年度は1学期だけ授業をお願いした。前年度まで非常勤助手であった鈴木百合子氏は非常勤講師として、1969年度1, 2学期、1970年度の1学期に授業を担当された。沢田慶輔客員教授、および池田央講師は、第3学期の授業を担当して下さった。

助手は、1969年度は常勤山本勝美、非常勤(大学院学生) 苫米地憲昭、欧陽效平であったが、1970年は常勤深見敦子(日本女子大卒)、非常勤、沖千津子(東大博士課程)および大学院生助手苫米地憲昭となっている。

都留春夫教授

I 研究活動

1970年4月より横浜カウンセリングセンターの相談員となり、実施を通してカウンセリングに関する研究をはじめた。また、グループカウンセリング、小集団活動、センシティブティ・トレーニングに関する研究、それらの基礎となる人間論、人間関係論に関する研究を試みている。

II 学会発表等

1969年5月、社会心理学会研究討論会において「緊張に生きる人間と感受性訓練」という主題で発題した。1970年5月、日本相談学会シンポジウム「未来社会とカウンセリング」では指定討論者になった。1969年7月および1970年9月に開かれた第7回および第8回全国学生相談研修会では運営委員および助言者の役割りを引き受けた。1970年10月、日本臨床心理学会に出席した。その他の活動としては、立教大学キリスト教教育研究所、厚生省療養所課、文部省社会教育研修所、厚生省北海道地方医務局、日本カウンセリング協会の主催する指導性訓練、感受性訓練、カウンセリング・ワークショップなどに、指導者、講師、スタッフ、世話人として数回参加した。

III 著作

1. (訳書) E. V. ピュリアス, J. D. ヤング共著 「教師—その役割の多面性」 文教書院 1970年10月発行
2. (共著) IDE大学教育研究会編 「世界の大学問題」I 東大出版会 1969年
3. 「LT方式の研修会とその諸問題」 行動と情報の科学 第1巻, 第3号, 1969年
4. 「現代社会に生きる人間」 行動と情報の科学 第1巻, 第4号, 1970年
5. 「看護とであい」 総合看護 第4巻, 等3号, 1969年
6. 「東南アジアからかえって」 IDE 第91号, 1969年4月号
7. 「東南アジアにおける日本研究」 IDE 第98号, 1969年11月号
8. (文献紹介) ランドラム・ボリング 「学生の不満」 IDE大学教育国際資料 第18号, 1969年
9. (文献紹介) 高等教育の学生に関する委員会編 「アメリカの大学生」 IDE大学教育国際資料 第22号, 1969年

古畑和孝助教授

I 研究活動

教育心理学における基礎的研究。殊に対人関係の心理

具体的には、母—子関係に関する自分の研究資料の再吟味；対人態度認知の機制的考察；協同—競争に対する態度尺度試作とその対人態度との関連検討；準拠集団と道徳性の発達との関連についての基礎的な考究などを行ってきた。

また、上智大学大学院・東京大学教育学部（69年度）などで非常勤講師をし、2, 3の公的・私的な研究会に関係してきた。

II 学会発表等

1969年8月, 日本心理学会第33回大会(東京大学: 於・国立教育会館)において, 鈴木百合子と連名で, 「均衡理論の適用による母一子の態度に関する研究(第2報告)」を口頭発表(同論文集447~8頁所載)。また, この部会の司会者。さらに, 1970年8月, 同学会第34回大会(東北大学: 於・東北工学大学)において, 同一題目副題は「母一子の態度の安定性・変動性」でその「第3報告」を口頭発表(論文等は未刊)。なお, この一連の研究のうち, その一部は本学「教育研究」14号, 61—121頁および本号に収録, 他の一部は「教育心理学研究」(1971年19巻, 3号)に掲載予定。

1969年10月, 日本教育心理学会第11回総会(広島大学: 於・広島女子大学)において, 鈴木百合子と連名で, 「青年における対人態度認知の機制(第2報告)」を口頭発表(同論文集90~93頁所載)。またこの部会の座長。

1970年10月, 日本教育心理学会第12回総会(京都教育大学)ににおいて, 「協同競争と対人態度(第1報告)」につき口頭発表, (同論文集310~1頁所載)。また, この部会の座長。

III 著作(上記諸論文を除く, 1969年秋以降刊行のもの)

- 1) 社会的学習 山下俊郎・他(監修) 児童心理学講座・第2巻「発達と学習」金子書房, 1969年12月, 179~235頁。
- 2) 学習と集団 沢田慶輔・小口忠彦(編)「教育心理学」有斐閣, 1970年4月, 35~71頁。
- 3) (翻訳) デ・ソード「社会構造の学習」田中靖政(編訳)「現代アメリカ社会心理学」日本評論社, 1970年8月, 107~118頁。
- 4) その他 数編, 印刷中乃至進行中。

原一雄助教授

I 研究活動

1969年2月より70年4月まで, プエルト・リコ大学医学部生物物理・生理学研究室に客員教授として滞在, 同地の米国国立衛生研究所 Lab. of Perinatal Physiologyで「中枢神経系の組織学的研究」と「赤毛猿の学習と社会行動」の実験を行う。

1970年5月より8月まで, 米国メリーランド州の米国国立衛生研究所慢性中枢神経系疾患研究所の客員研究員として「大脳半球切離が学習の転移に及ぼす影響」と「幼児期の感覚喪失が学習の発達に及ぼす影響」を研究する。

1970年9月復職。小平市国立武蔵療養所行動生理研究室において, 清野昌一医博と「てんかん性疾患の大脳半球転移」につき共同研究を始める。

II 学会発表等

- 1) 1969年1月 キリスト教文化学会年会(同志社大学)「大学生の職業的・道徳的価値指向について」
- 2) 1969年10月 Inter-American Neuroscience Conference (San Juan)「Agg-

ressive behavior and the amygdala nucleus」

- 3) 1970年5月 Eastern Psychological Association (Atlantic) 「Interhemispheric transfer of visual learning in the monkey」
- 4) 1970年8月 National Institute of Health Biopsychology Seminar (Bethesda) 「Emotional expressions and the neuro-mechanisms」

Ⅲ 著 作

- 1) 「試験」 鹿島出版会(編) 社会科学大事典 9巻, 39
- 2) 「入学事務部設立のすすめ」 大学基準協会 会報 14号, 56—60
- 3) 「大学生の道徳的価値指向について」 基督教文化学会 年報 16号, 16—27
- 4) 「大学教育の総合評価 その1 大学における学校評価と国際基督教大学のための試案」(渡辺幸一と共著) 教育研究 14号, 123—139
- 5) 「大学教育の総合評価 その2 ICU在学生による学生生活の評価」(岩瀬純一・中山和彦と共著) 教育研究 14号, 141—155
- 6) (翻訳)アルゴ D. ヘンダーソン「望ましき説得——大学内におけるコミュニケーション」 IDE大学教育国際資料 13号, 29—32
- 7) (随筆)「海外だより:アメリカでも授業料は値上げつづき」 民主教育協会誌 IDE 103号, 46—47

星野命助教授

I 研究活動

1965年より継続的に進められて来た六ヶ国共同研究“A Cross-national Study of Socialization of Children into Compliance System”の調査研究報告第2部日本編をまとめた。すなわち、7月25日より8月7日までコロラド大学心理学研究室に赴いて、過ぐる年に都内の小中学校において実施し集計されたPAR(絵画による攻撃性測定)およびPNI(友人選択インベントリー)の結果について、Dr. Leigh Minturnと討議しつつ英文報告書を作成した。これは他の国々よりの報告および国際比較の章とともにまとめられて、1970年10月に発行された。

8月24日より28日まで、ハワイのEast-West Centerにおいて開かれたJapan-U. S. Joint Socio-linguistics Conferenceに、日本学術振興会の後援で、他の数名の日本人研究者とともに参加した。会議の主目的は、今後の共同研究のために適切な課題を発見することであったが、参加者それぞれの関心のあるところと、研究計画試案のようなものを発表するよう求められていたので、第2日の午後のセッションにおいて、“AKUTAI as an expressive word and behavior transmitting Japanese values”を発表した。その後の討議においては英語におけるswearing, abuseや、Negroの子どもに見られるritual insultingの例なども示され、彼我におけるverbal aggressionの諸型と、その背後にある心理機制の重要性が相互に指摘された。

II 学会発表

1969年10月13, 14両日に開かれた日本臨床心理学会第5回大会において口頭発表される筈であった「2, 3年を距てて2度施行したY. G. テストによる性格発達の自己理解」(山本勝美助手との共同研究)は, 同大会が, 第1日午後より心理技術者認定委員会の問題をめぐって研究発表を中止したため事実上未発表に終わった。1970年9月に東京で開かれた第8回全国学生相談研修会では運営委員を担当した。

Ⅲ 著 作

1) 「社会的人間の形成と社会化」本明寛編：人間—その変革を求めて, 芸林書房, 56~73頁 2) 「家庭における感情の教育」児童心理, 23巻, 11号, 金子書房, 61~69頁 3) 「オルポートの人格理論と人格評価の方法」指導と評価, 15巻, 12号, 応用教育研究所, 14~17頁 4) 「事例研究の意義と諸問題」片口安史・星野命・岡部祥平共編：ロールシャッハ法による事例研究, 誠信書房, 223~233頁 5) 「講座感情の心理と教育(一), (二)」児童心理, 24巻, 7, 8号, 金子書房, 1264~1283頁, 1445~1477頁。その他, 「社会科学大事典」(鹿島研究所出版会刊), 「児童学事典」(光生館未刊), 「心理学の基礎知識」(有斐閣近刊)に分担執筆した。

また1968年7月に「放送朝日」に発表した「日本人の性格構造—甘えをめぐって—」は, 祖父江孝男編：現代のエスプリ「日本人, その構造分析」(至文堂刊)に, 「甘えの心理」と題して再録された。

C. 視聴覚教育研究室

布留教授を代表研究者とする文部省科学研究費による機関研究「青少年に対するテレビジョンの機能」は第3年度をむかえ, 本年度は阿久津講師が加わり共同研究者がそれぞれ次の課題のもとに研究を開始した。中野助教授：「幼児向テレビ番組に対するテレビの機能に関する研究」, 古畑助教授：「スクリーンに現われる行為の模倣反応に関する研究」, 阿久津講師：「児童のテレビ行動におけるオピニオン・リーダーシップの研究」。このうち阿久津講師による研究は3月に調査を実施した。中野・古畑助教授は実験の準備中である。布留教授は第1年度, 2年度の研究結果の報告書作成のためリーブをとり, これを完了した。この報告書は *The Function of Television for Children and Adolescents* と題する323頁にわたる英文版で, 文部省の出版助成金を得て1971年3月に出版の予定である。この研究に関し, 小・中学生を対象とした昨年度の調査の一部を次の学会で発表した。

- 1) 日本教育学会第28回大会, 「テレビジョンと学業成績」(布留・中野・生田)
- 2) 第10回日本社会心理学会, 「テレビ型対活字型の比較」(布留・中野・生田)
- 3) 第16回日本放送教育学会, 「テレビによる知識の学習」(布留・中野・生田)。

布留武郎教授

I 研究活動

上記文部省機関研究で中核的活動を行ない, その成果を上記の学会で発表するとと

もに、先述の報告書を作成した。

II 学会活動

現在、教育社会学会評議員、視聴覚教育学会常任理事、同学会機関誌『視聴覚教育研究』の編集責任者、日本放送教育学会常任理事、ミュンヘンにある Prix Jeunesse International の国際諮問委員等をつとめている。

III 論文

西本三十二編、『視聴覚年鑑1970』（教育家庭新聞社）に、「家庭教育とテレビ」の項目を執筆。

中野照海助教授

I・II 学会・研究会等発表

1970年3月東京でおこなわれた、Work-shop of the Experimental Project on Programed Instruction in Asia において、“Stages on Preparation of Programed Materials” を発表した。1970年8月第16回日本放送教育学会大会シンポジウム「放送教育の新しいヴィジョン」、1970年9月第7回日本視聴覚教育学会シンポジウム「情報化社会における視聴覚教育の役割」において提案した。1970年10月東京でおこなわれたASPACの視聴覚教育セミナーにおいて、“Radio and Television in Education” の発表をおこない、この会期中 National Report の Session の議長をつとめた。

III 出版関係

1969年10月以降に執筆した出版物は、木原健太郎編著『教育のシステム化と放送教育』（明治図書）「第5章 システム概念による放送教育の分析」、坂元昂他編『教育工学講座I 教育工学の概念』（大日本図書）の「第2章 教育の理念と教育工学」。その他、雑誌『学校経営』、『授業研究』、『放送教育』、『視聴覚教育』、『エレクトロニクス』等に寄稿した。

現在、編集中ないしは印刷中のものに、末武国弘他編『教育工学講座第3巻』（明治図書）の「I. 教授活動の機械化の意義」。および同講座第4巻の「I. 学習活動の自動化」。細谷俊夫他編『教育経営事典』（帝国地方行政学会）の3項目、教育出版編『教育工学辞典』の教育メディア関係70項目の編集と執筆分担がある。

阿久津喜弘講師

I 研究活動

- (1) 文部省科学研究費による機関研究「青少年に対するテレビジョンの機能」（代表研究者布留武郎教授）第3年次研究の一課題である、「児童のテレビ行動におけるオピニオン・リーダーシップ」を担当し、1970年3月7・8日両日、神奈川県相模原市の団地居住児童282名を対象として、個別面接調査を実施した。生田助手をはじめ11名の助手・学生が面接者として調査に参加。（本調査の一部は『教育社会学研究第25集』に発表されるとともに日本教育社会学会第22回大会に

において発表される。)

- (2) 1970年3月31日に起った日航機(よど号)乗っ取り事件に関して、「予期せぬ事件のニュース・ソース」研究のため、同日夕刻東京都三鷹地区に住む主婦336名を対象として、電話面接調査を実施した。視聴覚教育研究室の4名の助手・学生が参加。(本研究の結果は、日本新聞学会1970年度秋季研究発表会において報告される。)
- (3) 組織内コミュニケーションの諸問題を研究テーマとして、いろいろな組織において調査を実施。第1課題として、「企業組織における情報と影響の流れ」について調査中である。(この調査結果は、日本社会心理学会第11回大会で発表される。)
- (4) 日本教育社会学会研究部副部長として、学会研究活動に参加するとともに、日本教育社会学会20周年記念刊行事業委員として、記念刊行物「教育社会学の基本問題」および「教育社会学の展開」の編集に従事している。

III 著 作

- (1) 西本三十二編、『視聴覚年鑑1970』(教育家庭新聞社)の「視聴覚コミュニケーションの研究」の項目を執筆。
- (2) 『理科の教育』19巻8号の「現代社会における創造性とその分析—情報処理過程と創造性」を執筆。

生田孝至助手

第6回日本視聴覚教育学会(於早大付高、1969年8月29日)で「テレビ視聴の精神作業に及ぼす影響」と題して発表。機関研究に関して先述の諸学会で布留教授らと共に発表。現在布留教授の指導の下に上記機関研究の分析等を行なうとともに、阿久津講師の「児童のテレビ行動におけるオピニオン・リーダーシップ」「予期せぬ事件のニュース・ソース」、「企業組織における情報と影響の流れ」等の研究に参加している。

D. 理科教育法研究室

篠遠喜人客員教授

7月チェコスロバキアでメンデルについての功績に対して表彰された。

勝見允行教授(アソシエートプロフェッサー)

本年度から新たに大学院理科教育法のスタッフに加わった。

中山和彦講師

I 研究活動 1969年9月5日~10月7日の間 パリのユネスコ本部で開かれた国連の Advisory Committee on the Application of Science and Technology とユネスコの Division of Science Teaching との共催による“Working Party on the Improvement of Science Education with Special Reference to Developing Countries”に18名の専門家の一員として招待され、同会議に参加した。同会議は開発途上にある国における理科教育のあり方、国連やユネスコが今後50年間において開

発途上国に対してなさなければならぬ方策についてのブループリントをつくるための会議であり、同会議において2つの論文を発表したほか、報告書および勧告文作成委員として働いた。

1970年3月9日から14日まで、セイロン国コロomboおよびパラデニヤにおいて開催されたアジア生物教育学会常任委員会および第3回アジア生物教育会議準備委員会に出張。

1970年12月末にフィリッピン国マニラにおいて開催される第3回アジア生物教育会議の開会講演者に指名された。

1970年4月に結成された大学生物科学教育研究会（会員数約350名）の常任委員および会誌編集委員に選ばれる。

1970年6月に、日本BSCS委員会が改組され、新たに発足した日本生物教育課程研究委員会とに選ばれる。

東京都、北海道、福岡県をはじめとして、日本全国において教員講習会の講師として、延20数回奉仕する。

1970年7月6日から11日まで開かれた、OECD主催の「教育におけるコンピューター利用に関する国際セミナー」に日本代表として参加、また会議議長および会議運営委員として奉仕。

II 出版

中山和彦編著「BSCS上級版—実験とアイデア」三省堂、1970年7月。

「理科教育と創造性」理科の教育、1970年9月。

「教育におけるコンピューター利用」教育展望、1970年8・9月。

「Preparing for and Introducing a New Curriculum Developed in Other Countries ; An Experience in Japan」Resource Paper for Working Party on the Improvement of Science Education with Special Reference to Developing Countries, Paris, Sept. 1970.

「Primary and Secondary Teacher Training ; The Possible Participation of Teachers in Curriculum Reform and Development of New Materials as Part of Their Training」

「Some Problems in Pre-Service and In-service Training of Secondary School Biology Teachers—Based on Research of Teaching Goals held by Teachers」: UNESCO National Commission Publication, Oct. 1970.

原島鮮教授

I 研究活動 文部省高等学校教育課程審議会委員として基本方針作製答申。日本物理教育学会副会長として物理教育学会理事会に参加。

Commission on Physics Education, International Union of Pure and Applied Physics の corresponding committee member として、また1970年9月開催

の Congress on Education of Physics Teachers of Secondary Schools (開催地 Eger, Hungary) の準備委として上記会議の準備をする。同時に論文「Computer-Generated Films for Secondary School Physics Education」を提出する。(9月予定通り開催出席した, 詳細は次号) 1970年4月, 日本物理学会分科会で自作物理教育用フィルムについて講演。

II 出版 基礎物理学II, 学術図書出版社, 1969年10月発行(同年3月発行の基礎物理学Iに続くもの)。

その他 物理教育映画監修16mm 25巻, 8mm 25巻完成(講談社より発売予定)

2. 大学院教育学研究科修士論文

(1969年及び1970年卒業者)

1969年6月卒業者6名

A. 教育哲学(2)

上林喜久子 The American Comprehensive High School-Quality VS. Quantity of Education

山村 慧 ブライアン・ホームズにおける「問題接近法」の基本的性格と問題点

B. 視聴覚教育法(3)

中川 良世 英語教科書のリーダビリティの分析

鈴木 義雄 プログラム学習教材の集団呈示に於ける部分強化の要因の実験的研究

高橋 守人 英語の聴解力に関する因子分析的研究——英語聴解力評価の観点から——

C. 英語教育法(1)

伊藤 弘子 The History of English Teaching in Japan with one Suggested Program for Pattern Practice

1970年3月卒業者1名

英語教育法

古岩井孝子 A Study of Chaucer's Romance Vocabulary in *the Consolation of Philosophy*

1970年6月卒業者7名

A. 視聴覚教育法(1)

宇佐見昇三 テレビ英会話番組制作の基準とカリキュラムの構成

B. 英語教育法(6)

伊藤かづ子 A New Approach to the Study of English Articles

河野 武 Relativization and Articles of Antecedent Noun Phrases in English

Miller, Marvin Politeness in English : A Sociolinguistic Study of Commands

中田 清一 Aspects of Adjective Constructions in English

佐藤 陽子 Relatives *Who, Which, That* in Shakespeare

鈴木 晶子 A Study of Modal Auxiliaries in English

3. 教育実習報告

(1969年度分)

1969年度教育実習は大学紛争の最中、5月19～10日25日にかけて、37人(都の受入れ許可は47人)の学生が参加、三鷹、豊多摩、杉並高校、三鷹一、二、三、四、五中、武蔵野一中、小金井東中およびフェリス女学院等の協力の下に行なわれた。

他の授業が全く停止していた中で教育実習だけは事前指導への妨害や一部不参加者が生じたなど、いろいろな困難があったにもかかわらず、無事に実施できたことは幸いであった。

1970年3月31日卒業生116名中、教免取得者18名、内男子2名(英1, 英・社1)が私立男子高校に就職した。

1. 実習生総数37(男子5, 女子32)

2. 実習日程

5月19日～31日(豊多摩高校、三鷹第一、第二、第三、第四、第五中学および小金井東中学)

9月3日～16日(三鷹高校)

9月8日～20日(杉並高校、武蔵野第一中学)

10月13日～25日(フェリス女学院)

3. 実習配当校

教科	実習校	三鷹高校	豊多摩高校	杉並高校	三鷹一中	三鷹二中	三鷹三中	三鷹四中	三鷹五中	武蔵野一中	小金井東中	女フェリス学院	合計
英語		3	4	1	3		5	5	4	4	2	1	32
社会					1	3							4
理科					1								1
計		3	4	1	5	3	5	5	4	4	2	1	37

(1970年度分)

1970年度の教育実習参加希望者46人中東京都教育委員会からは32名の受け入れしか許されず、今年からは特に教育実習生の「人物に関する証明書」も必要となり、一段と公立校での実習のきびしさが感じられ、安易に教員免許状の取得が許されなくなったことを痛感する。また、以下のような地域の拡大、期間等の問題もあって、今後の本学の教育実習方針について、学内選考制の導入など、根本的再検討が必要となるのではないかと考えられる。6月1日から10月17日に亘り、三鷹、杉並高校、三鷹一、二、三、五中、武蔵野二中、小金井東中、関東学院中、駒沢中、日本三育学院および大成高校の協力の下に行なわれたが、実習受入れの減少に伴い、地域も広範囲に亘るため、実習の困難度は高まった。今年には特に新しい協力校日本三育学院、駒沢中学大成高校等の厚意に深く感謝する。

1. 実習生総数 46 (男子7, 女子39)

2. 実習日程

6月1日～13日 三鷹第二中学

6月8日～20日 杉並高校, 三鷹第一中学

6月14日～27日 三鷹第三中学, 関東学院三春台中学

6月29日～7月18日 駒沢中学

9月2日～14日 三鷹高校

9月7日～19日 小金井東中, 日本三育学院, 大成高校

9月21日～10月3日 三鷹第五中学

10月5日～17日 武蔵野第二中学

3. 実習配当校

教科	実習校	三鷹高校	杉並高校	三鷹一中	三鷹二中	三鷹三中	三鷹五中	武蔵野二中	小金井東中	駒沢中	関東学院中	学日本三育院	大成高校	合計
英語		6	2	5		3	2	3	2	2		6		31
社会				2	2		2		2		1			9
理科					2								1	3
数学									3					3
計		6	2	7	4	3	4	3	7	2	1	6	1	46

4. ひとのうごき

○新任・辞任

阿久津喜弘講師（コミュニケーション学）：ミシガン州立大学での留学を終え、1969年9月より着任。

金子武蔵客員教授（教育哲学）（教育哲学演習）：70年9月より着任。

成田克矢講師（非常勤）（比較教育学）（日本教育の基礎）：69年9月より着任。

黒木総一郎講師（非常勤）（視聴覚の心理）：69年9月より着任。

池田央講師（非常勤）（教育と心理学のための統計）：69年12月より着任。

鈴木百合子講師（非常勤）（教育心理学）：69年4月より着任。

深見敦子助手（教育心理学）：70年4月より着任。

沖千津子助手（非常勤）（教育心理学）：70年4月より着任。

苫米地憲昭助手（非常勤）（教育心理学）：69年4月より着任。

立川明助手（非常勤）（教育哲学）：70年4月より着任。

森田美千代助手（非常勤）（教育哲学）：70年4月より着任。

坂本久男助手（非常勤）（視聴覚教育）：70年4月より着任。

岩田静江助手（非常勤）（視聴覚教育）：70年9月より着任。

高橋節子秘書：70年4月より着任。

小林哲也助教授（比較教育学・前教育研究所所長）：ユネスコ教育研究所所長に任ぜられ、休職中であったが、69年7月5日辞任。

山本勝美助手（教育心理学）：70年3月退任。

安積力也助手（非常勤）（視聴覚教育）：69年4月着任，70年3月退任。

町田喜義助手（非常勤）（視聴覚教育）：70年4月着任，6月30日退任。

安富節子助手（非常勤）（教育哲学）：69年4月着任，3月退任。

欧陽效平助手（非常勤）（教育心理学）：69年4月着任，3月退任。

高橋守人助手（非常勤）（視聴覚教育）：69年4月着任，3月退任。

真壁知子秘書：69年4月30日退職。

○海外出張・帰任・休職

原一雄助教授（教育心理学）：69年2月より米国国立衛生研究所研究員として、プエルトリコ大学医学部，メリーランド州慢性神経失患研究所での研究を終え，70年8月帰任。

ヘルムット P. モースバッハ助教授（教育心理学）：69年9月よりスコットランドグラスゴー大学にて研究のため休職。

秋田稔教授（キリスト教教育哲学）：70年4月よりの休暇を終え，10月帰任。

布留武郎教授（視聴覚教育学・教育研究所所長）：70年4月よりの休暇を終え，10月帰任。

デューク助教授(比較教育学)：68年9月よりの英国，ロンドン大学での研究を終え，69年10月帰任。

中山和彦講師(理科教育)：文部省大学学術局専門員に選ばれ，70年9月より休職。